

## 地域医療を拡充する運動について

### ～ゆたかで住みよい和歌山県をつくる会がシンポジウムを開催

6月23日、ゆたかで住みよい和歌山県をつくる会が、政策シンポジウムを開催しました。秋に戦われる県知事選挙に向けて政策づくりの一環として分野別に開催しています。今回は地域医療に光を当てて取り組みました。

4人から問題提起・報告を行っていただきました。○国民要求実現有田大運動実行委員会 代表 貴志 武さん ○国民要求実現紀南大運動実行委員会 事務局 和教組東牟婁支部 書記長 増田 弘さん ○和歌山民医連 会長 佐藤 洋一さん ○和歌山県医労連 副執行委員長 佐藤 英昭さん

### ◎有田地域、紀南地域から運動の報告

貴志さんからは、有田地域における産科医療や市立病院をめぐる現状について報告され、「有田市立病院を発展させ、地域医療を守る会」を立ち上げて運動に取り組んでいると報告がされました。現在、住民アンケートに取り組んでおり、グーグルフォームからの回答が255、FAXや持ち込みをあわせて400通をこえる反響がありました。市立病院医に対する関心の高さがうかがえます。今後会では、アンケート結果をもとに市当局との懇談を行う予定です。

増田さんからは、新宮市立医療センターで分娩が中止されることが起こり、地元で署名運動などが取り組まれた、市長との懇談も行いました。大運動実行委員会は市職労とともに県知事あての署名活動に取り組み、3,000筆を集めることができました。2月2日には、地元選出の県会議員を通して県当局に陳情を行いました。その後関係者の努力が実り6月から分娩予約が再開されました。しかし、医師の働き方改革の影響で、5人の産科医師がなかったら安心ができないので、新宮市長は近隣自治体とも協議しているところということです。

### ◎小児医療の実態、コロナ禍での医療・介護現場の声を紹介

#### 医師確保 県としてできることは？ 他府県の経験にも学ぶことが必要か

佐藤医師からは、小児科医療の実態が報告され、コロナ禍で子どもたちのメンタル面での影響や生活リズムの崩れが指摘されました。また受診控えで小児科の患者数が激減したために、診療所を閉めたところも出たというお話です。

佐藤さんからは、コロナ禍でひっ迫している医療現場・介護現場の声を紹介され、普段からゆとりのある人員体制が必要であることがはっきりとしたと指摘。諸外国に比べても医師や看護師の数は少ないと資料を示して訴えました。にもかかわらず、国は地域医療構想を捨てず、ベッド削減の方針を変えていないと告発しました。2年後に迫った医師の働き方改革によって医師不足に拍車がかかり救急医療などへの影響が心配されます。

参加者からは、「なぜ、産科、小児科医師が少ないのか？」「国は何か対策を打っているのか？」など質問が出されました。医師確保は基本は国の仕事ですが、県ではどんなことができるのか、今後他府県の取り組みにも学びながら政策に仕上げていく必要があると思います。